

## 法人・施設の沿革

1963年	7月	「社団法人北海道身体障害者福祉協会」が事業の一環として当地に於いてクリーニング事業を開始 (名称：北海道身体障害者福祉総合センター・リハビリ)	2007年	9月	身体障害者通所授産施設「リハビリー・ユアアイ」を廃止
	11月	厚生大臣より「 <b>社会福祉法人北海道身体障害者福祉協会</b> 」の設立認可を受ける		10月	「リハビリー作業所」に「リハビリー・ユアアイ」の事業を統合して「 <b>リハビリー・おおぞら</b> 」に改称し、定員を60名から100名に変更 《就労移行支援事業 6名、就労継続支援事業(A型) 34名、就労継続支援事業(B型) 60名》
	12月	「社会福祉法人北海道身体障害者福祉協会」の設立登記	2008年	7月	「セルフさっぽろ」の従たる事業所「 <b>ウェルプラザやまはな</b> 」の開設に伴い、就労継続支援A型事業を開始し、定員を60名から70名に変更 《就労移行支援事業 6名、就労継続支援事業(A型) 10名、就労継続支援事業(B型) 54名》
1964年	4月	身体障害者(収容)授産施設「 <b>北海道身体障害者福祉総合センター・リハビリー</b> 」を開設 《主授産科目－クリーニング、入所定員 56名》	2010年	4月	「セルフさっぽろ」の定員を70名から80名に変更 《就労移行支援事業 6名、就労継続支援事業(A型) 10名、就労継続支援事業(B型) 64名》
1965年	11月	「北海道身体障害者福祉総合センター・リハビリー」の定員を56名から100名に変更		10月	身体障害者授産施設「リハビリー・エイト」を新事業体系への移行に伴い廃止
1968年	4月	重度身体障害者授産施設「 <b>リハビリー・エイト</b> 」を開設 《主授産科目－印刷、入所定員 30名》		”	身体障害者授産施設「 <b>札幌ワークセンター</b> 」を新事業体系への移行に伴い廃止
	”	「北海道身体障害者福祉総合センター・リハビリー」をリハビリー・エイトの運営開始に合わせ「 <b>リハビリー・クリーナーズ</b> 」に改称		11月	障害者支援施設「 <b>リハビリー・エイト</b> 」を開設 《(施設入所支援事業 40名) 生活介護事業 40名》
	10月	「リハビリー・エイト」の定員を30名から60名に変更		”	障害福祉サービス事業「 <b>リハビリー・エイト</b> 」を開設 《定員40名 (就労移行支援事業 6名、就労継続支援事業(B型) 34名、短期入所事業(空床)》
1969年	2月	法人名称を「 <b>社会福祉法人北海道リハビリー</b> 」として、「社会福祉法人北海道身体障害者福祉協会」から授産施設を分離独立する		”	障害者支援施設「 <b>札幌ワークセンター</b> 」を開設 《(施設入所支援事業 30名) 生活介護事業 40名》
	4月	「リハビリー・クリーナーズ」通所事業の開始 《主授産科目－クリーニング、通所事業定員 15名 (以降昭和63年までに順次通所事業定員を30名までに増員)》		”	障害福祉サービス事業「 <b>札幌ワークセンター</b> 」を開設 《短期入所事業(空床)》
1973年	3月	身体障害者授産施設「 <b>美園更生園</b> 」(札幌市豊平区所在)を「社会福祉法人北海道社会復帰事業協会」から経営移管 (1968年11月15日「美園更生園」事業開始) 《主授産科目－縫製、入所定員 30名・通所事業定員 5名 (以降平成9年までに順次通所事業定員を43名に増員)》	2012年	1月	身体障害者授産施設「リハビリー・クリーナーズ」を新事業体系への移行に伴い廃止
1978年	4月	社会福祉事業法(社会福祉法)授産施設「 <b>リハビリー作業所</b> 」を開設 《主授産科目－クリーニング、通所定員 40名》		2月	障害福祉サービス事業「 <b>リハビリー・クリーナーズ</b> 」を開設 《定員40名 (就労継続支援事業(A型) 15名、就労継続支援事業(B型) 25名)》
	8月	「リハビリー・エイト」通所事業の開始 《主授産科目－印刷、通所事業定員 10名 (以降平成8年までに順次通所事業定員を19名に増員)》		”	障害福祉サービス事業「 <b>エルフィンホーム</b> 」(グループホーム・ケアホーム一体型事業所)を開設 《定員27名 (えぞりす 10名、かわせみ 10名、クローバー 7名)》
1991年	5月	「美園更生園」を「 <b>札幌ワークセンター</b> 」に改称		3月	地域活動支援センター「 <b>ポプルス</b> 」を廃止
1996年	7月	「リハビリー・クリーナーズ」の定員を100名から40名に変更		4月	「札幌ワークセンター」と「ポプルス」を統合して就労継続支援B型事業を開始し、定員を40名から60名に変更 《施設入所支援事業 30名、生活介護事業 40名、就労継続支援事業(B型) 20名、短期入所事業(空床)》
	”	「リハビリー・エイト」の定員を60名から50名に変更		11月	「リハビリー・おおぞら」施設棟を改築
1997年	3月	「リハビリー・クリーナーズ」の通所事業をリハビリー・ユアアイに分離独立するため廃止	2013年	3月	児童自立生活援助事業(自立援助ホーム)「 <b>陽だまり</b> 」を開設 《定員5名(女子)》
	4月	身体障害者通所授産施設「 <b>リハビリー・ユアアイ</b> 」を開設 《主授産科目－クリーニング、通所定員 50名》	2014年	3月	「エルフィンホーム(ケアホーム)」をグループホームとの一元化に伴い廃止
1998年	3月	「札幌ワークセンター」の通所事業をセルフさっぽろに分離独立するため廃止	2015年	1月	特定相談支援事業「 <b>ポプルス</b> 」を開設(札幌ワークセンターに併設)
	4月	身体障害者通所授産施設「 <b>セルフさっぽろ</b> 」を開設(札幌市豊平区月寒東に新築) 《主授産科目－縫製、通所定員 50名》	2016年	5月	「セルフさっぽろ」で生活困窮者就労訓練事業を開始し、定員を80名から82名に変更 《就労移行支援事業 6名、就労継続支援事業(A型) 10名、就労継続支援事業(B型) 64名、生活困窮者就労訓練事業 2名》
1999年	10月	「札幌ワークセンター」を札幌市清田区美しが丘に移転改築	2017年	4月	「リハビリー・クリーナーズ」作業棟を改築し、定員を40名から60名に変更 《就労移行支援事業 6名、就労継続支援事業(A型) 22名、就労継続支援事業(B型) 32名》
	”	身体障害者デイサービスセンター「 <b>ポプルス</b> 」を開設(札幌ワークセンターに併設) 《通所定員 20名/日》		”	「セルフさっぽろ」の定員を82名から102名に変更 《就労移行支援事業 6名、就労継続支援事業(A型) 10名、就労継続支援事業(B型) 84名、生活困窮者就労訓練事業 2名》
2001年	4月	「リハビリー・エイト」の定員を50名から40名に変更		”	「札幌ワークセンター」を「 <b>美しの森</b> 」に改称
	8月	「リハビリー・エイト」及び「法人事務所(法人本部)」を北広島市西の里507番地1に移転改築		10月	「エルフィンホーム」新ユニット(ユニット名:かえで)を増築し、定員を27名から35名に変更 《えぞりす 10名、かわせみ 10名、クローバー 7名、かえで 8名》
2003年	4月	「リハビリー・エイト」の施設種別を支援費制度導入に伴い、重度身体障害者授産施設から身体障害者授産施設へ変更(※施設種別の「重度」廃止)	2018年	1月	「セルフさっぽろ」定員を102名から105名に変更 《就労移行支援事業 6名、就労継続支援事業(A型) 10名、就労継続支援事業(B型) 84名、生活困窮者就労訓練事業 5名》
2006年	9月	社会福祉法授産施設「リハビリー作業所」を新事業体系への移行に伴い廃止		5月	「リハビリー・クリーナーズ」定員を60名から65名に変更 《就労移行支援事業 6名、就労継続支援事業(A型) 22名、就労継続支援事業(B型) 32名、生活困窮者就労訓練事業 5名》
	”	身体障害者通所授産施設「セルフさっぽろ」を新事業体系への移行に伴い廃止		10月	「リハビリー・おおぞら」で就労定着支援事業を開始 《就労移行支援事業 6名、就労継続支援事業(A型) 34名、就労継続支援事業(B型) 60名、就労定着支援事業 対象2名》
	”	身体障害者デイサービスセンター「ポプルス」を新事業体系への移行に伴い廃止		”	「セルフさっぽろ」で就労定着支援事業を開始 《就労移行支援事業 6名、就労継続支援事業(A型) 10名、就労継続支援事業(B型) 84名、生活困窮者就労訓練事業 5名、就労定着支援事業 対象4名》
	10月	障害福祉サービス事業「 <b>リハビリー作業所</b> 」を開設 《定員60名 (就労移行支援事業 6名、就労継続支援事業(A型) 30名、就労継続支援事業(B型) 24名)》			
	”	障害福祉サービス事業「 <b>セルフさっぽろ</b> 」を開設 《定員60名 (就労移行支援事業 12名、就労継続支援事業(B型) 48名)》			
	”	地域活動支援センター「 <b>ポプルス</b> 」を開設 《定員 15名/日》			